

PRAEVIDENTIA DAILY (6月4日)

昨日までの世界：ユーロ買戻し、NZ ドルは乳製品価格続落で下落

昨日は、ユーロなど欧州通貨が続落後に大幅反発した一方、NZ ドルの下落が大きかった。ユーロは、ユーロ圏5月HICPが前年比+0.5%と市場予想(+0.6%)を下回りデysinフレ傾向が確認されたことから、発表後に続落し対ドルで一時1.3588ドルと再び5月29日安値(1.3586ドル)に迫る水準へ下落した。もっとも、前日のドイツCPIである程度低いインフレは織り込まれていたこと、またドイツ分ほどの大幅な低下とはならなかったこともあってその後は買い戻しが優勢となり、一時1.36ドル台半ばへ反発した。前回のECB政策理事会以降の大幅下落(5月7日終値対比で+2.3%)で、明日の理事会での10-15bpsの利下げはほぼ織り込まれたといえるかもしれない。

他方、NZドルは、NY時間に発表された世界乳製品価格のオークション結果が前回比-4.2%と、8回連続の下落となったことから、発表後に下落した。ニュージーランドの主要輸出品である乳製品価格は中国の需要拡大もあって歴史的な高水準で推移していたが、世界の生産者が供給を増やし需給が緩和しつつあることもあって、価格は下落が続いている。

豪ドルは、豪小売売上高は前月比+0.2%と市場予想を若干下回ったものの、むしろ1Q経常赤字が-57億豪ドルと市場予想よりも小さく、純輸出の対GDP比が+1.4%と市場予想の倍近かったことが好感されたとみられ、その後強含みとなった。RBAは政策金利を据え置き、声明文内容は前回から大きな変化はなかったが、最近の住宅市場関連指標の悪化などについて触れられず、一部の市場参加者が想定していたほどにはハト派的ではなかったことも、豪ドルの買い戻しを誘ったとみられる。

この間、ドル/円相場は米長期債利回りの反発傾向が続いたことから、一時102.55円へ強含みとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

| | 変化率 | 米日2年金利差 | 米2年金利 | 日2年金利 | 米日10年金利差 | 米10年金利 | 日10年金利 | 米株価 | 日株価 | 原油WTI | 原油Brent |
|----------|------|-----------|--------|-------|------------|---------|--------|------|-------|---------|---------|
| ドル/円 | +0.1 | +0.01 | +0.01 | +0.00 | +0.07 | +0.07 | +0.00 | -0.0 | +0.7 | +0.2 | -0.0 |
| | 変化率 | 独米2年金利差 | 独2年金利 | 米2年金利 | 独米10年金利差 | 独10年金利 | 米10年金利 | 欧株価 | 米株価 | 原油Brent | 西伊の対独格差 |
| ユーロ/ドル | +0.2 | -0.01 | +0.00 | +0.01 | -0.03 | +0.04 | +0.07 | -0.4 | -0.0 | -0.0 | -0.02 |
| | 変化率 | 英米2年金利差 | 英2年金利 | 米2年金利 | 英米10年金利差 | 英10年金利 | 米10年金利 | 英株価 | 米株価 | | |
| ポンド/ドル | +0.0 | -0.00 | +0.01 | +0.01 | -0.04 | +0.03 | +0.07 | -0.4 | -0.0 | | |
| | 変化率 | 豪米2年金利差 | 豪2年金利 | 米2年金利 | 豪米10年金利差 | 豪10年金利 | 米10年金利 | 米株価 | 中国株価 | CRB | |
| 豪ドル/米ドル | +0.2 | +0.01 | +0.02 | +0.01 | -0.02 | +0.05 | +0.07 | -0.0 | -0.0 | -0.1 | |
| | 変化率 | NZ-米2年金利差 | NZ2年金利 | 米2年金利 | NZ-米10年金利差 | NZ10年金利 | 米10年金利 | 米株価 | 中国株価 | CRB | |
| NZドル/米ドル | -0.3 | +0.02 | +0.03 | +0.01 | -0.06 | +0.01 | +0.07 | -0.0 | -0.0 | -0.1 | |
| | 変化率 | 米加2年金利差 | 米2年金利 | 加2年金利 | 米加10年金利差 | 米10年金利 | 加10年金利 | 米株価 | 原油WTI | CRB | |
| 米ドル/加ドル | +0.1 | -0.00 | +0.01 | +0.01 | +0.01 | +0.07 | +0.06 | -0.0 | +0.2 | -0.1 | |

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

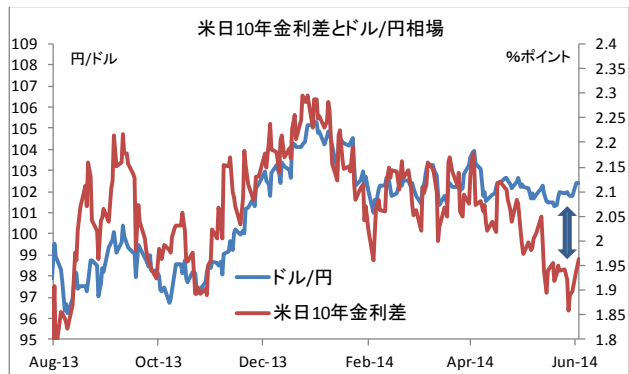
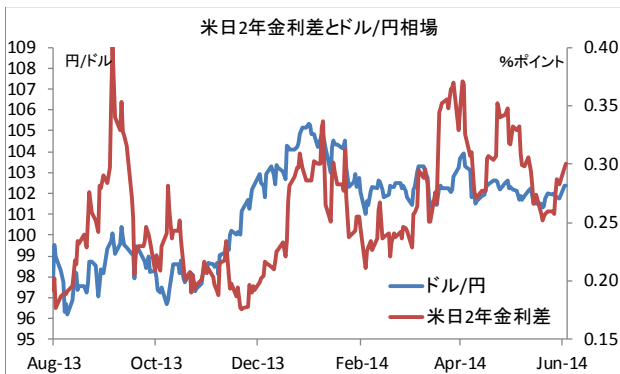
きょうの高慢な偏見：カナダ中銀の通貨安志向

きょうの注目通貨：CAD↓

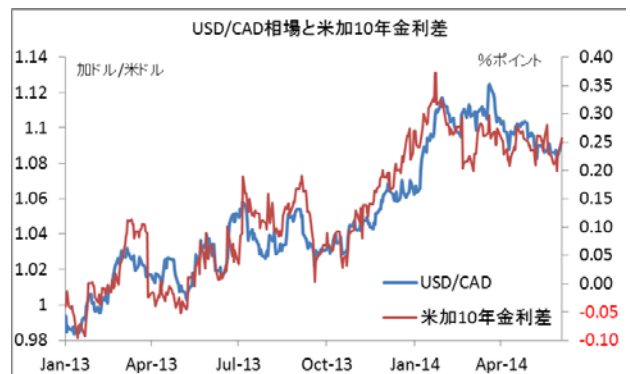
| きょうの指標、イベント | 時刻 | 前期 | 市場予想 | 備考 |
|--------------------------|--------------|-----------------|-----------------|---------------------|
| 豪 1Q GDP 前期比 | 10:30 | +0.8% | +0.9% | |
| 英 5月サービス業 PMI | 17:30 | 58.7 | 58.2 | |
| 米 5月 ADP 民間雇用統計 | 21:15 | +22.0 万人 | +21.3 万人 | |
| 米 4月貿易収支・ドル | 21:30 | -404 億 | -408 億 | |
| カナダ 4月国際商品貿易・加ドル | 21:30 | +0.8 億 | +1.0 億 | |
| カナダ中銀金融政策決定 | 23:00 | 1.00% | 1.00% | |
| 米 5月 ISM 非製造業景況指数 | 23:00 | 55.2 | 55.5 | 雇用指数は前月 51.3 |
| 米地区連銀報告 | 3:00 | | | |
| G7 首脳会合開始（ブリュッセル） | 3:00 | | | 5日まで |

（出所）プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は金曜の雇用統計の前哨戦として **ADP 民間雇用統計** および **ISM 非製造業景況指数の雇用指数** が注目される。4月分の公式雇用統計が+28.8万人と高い伸びを示した後、今回5月分は+21.5万人の予想で、ADPも同様に前月から雇用増が小さくなる予想となっている。足許、米長期債利回りが持ち直し傾向となっていることから、市場予想を上回る場合の金利上昇とドル/円の続伸リスクの方が大きいとみられる。もっとも、足許は米長期債利回り動向（および日米長期金利差）とドル/円は乖離しており（**下図を参照**）、また多少の経済指標の振れでも10月までは100億ドルずつのテーパリングが淡々と行われることから、米経済指標とドル/円の関係性は薄れている。このため、逆に前回の雇用統計発表後のように、市場予想を大きく上回ってもドル/円が上昇しない場合には、レンジ下限を再トライする展開に反転するだろう。



カナダ中銀は当面利上げも利下げも行わない中立姿勢を続けているが、金融政策会合後には声明文の内容を受けてカナダドルが大きく動くことが多い。最近のカナダ経済指標をみると、雇用者数が大幅減少、1Q GDPも予想を下回った一方、総合CPIが前年比+2.0%へ大きく上昇しデフレーション/デフレリスクが大きく後退している。このため、声明文に景気についてやや弱い表現が織り込まれればカナダドル売り、他方でインフレについて下振れリスクの方が大きい、という前回の表現が弱められるようだとカナダドル買いに繋がるだろう。但し、カナダ中銀は豪 RBA と似て、成長押上げのためにカナダドル安が必要という認識を持っているため、更なるカナダドル高に繋がり得る声明文のハト派度後退はやらない可能性が高いだろう。より中期的には、カナダ中銀は米国よりも先に利上げは行わない可能性が高く、カナダドルは対米ドルで再び下落基調に向かうとみている。米ドル/カナダドル相場は、米加10年債利回り格差と非常に連動性が高く、足許の米長期債利回りの持ち直し傾向も、カナダドル安圧力となっている（**下図を参照**）。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641